

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

Osaka National Hospital

News



独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターニュース

No.59

平成30年1月

このニュースは、年4回、
大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。
詳しいお問い合わせは
地域医療連携室までお寄せください。



目次

地域医療連携室より

- ・ 新任及び退職医師のお知らせ 2
- ・ 講演会のご案内 2

2018年 新年の挨拶 3

病院のトピックス

- ・ 第42回 法円坂地域医療フォーラムの報告 4
- ・ 第60回 おおさか健康セミナーの報告 6
- ・ 緩和ケア研修会 8
- ・ 連携医療機関の先生方にご利用頂けるMRI、CTの予約システムについて 10
- ・ 『第45回 “愛の夢コンサート” クリスマスコンサート』を終えて 12
- ・ 講演会・セミナー等のご案内 14
- ・ 脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内 15
- ・ NHO PRESS ～国立病院機構通信～について 15

独立行政法人 国立病院機構 **大阪医療センター**

地域医療連携室 平成30年1月発行 59号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

TEL.06-6946-3516

☎ 0120-694-635

FAX.06-6946-3517

[HP] <http://www.onh.go.jp/>

[E-mail] comonh@onh.go.jp

～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

1) 政策医療の推進

- ・基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・専門医療と総合診療の充実
- ・医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



- 正しく
- 品よく
- 心をこめて

2) 高度先進医療への貢献

- ・技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

3) レベルの高い医療人を育成

- ・卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・専門職の育成

4) 情報開示と情報発信

- ・透明性を保った情報の開示・発信

新任及び退職医師のお知らせ

新任医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
H30.1.1	皮膚科非常勤医師	則岡 有佳	採用
H30.1.1	皮膚科専修医	吉田 裕梨	採用

退職医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
H29.12.31	耳鼻咽喉科専修医	秋田佳名子	退職

講演会のご案内

開催日時	件名	内容	対象者
平成30年1月25日(木)	2017年度 第5回オンコロジーセミナー	テーマ：「初心者のための放射線治療講座」 担当：放射線治療科	医師及び 医療従事者
平成30年2月 3日(土)	第61回おおさか健康セミナー	テーマ：「口と顎の身近な病気」 担当：口腔外科	一般市民
平成30年2月15日(木)	第11回法円坂緩和ケアセミナー	テーマ：「食べること、飲むことにこだわる」	医師及び 医療従事者
平成30年2月17日(土)	第43回法円坂地域医療フォーラム	テーマ：大腸疾患治療 担当：下部消化管外科・消化器内科	医師及び 医療従事者
平成30年3月15日(木)	2017年度 第6回オンコロジーセミナー	未定	医師及び 医療従事者

開催場所 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂 **アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅⑩号出口すぐ

問合せ 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）

2018年 新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。皆さま方におかれましては良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中はあたたかいご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、皆さま方のご多幸・ご繁栄をお祈りいたしております。

さて、第7次大阪府保健医療計画では、住み慣れた地域で医療サービスを必要な時に受けることができるよう、医療と介護が連携した、効果的・効率的で切れ目のない医療の提供をめざし、府内8つの2次医療圏ごとに将来のあるべき医療提供体制について関係者間で協議していく方針が示されました。当院は地域における「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等の高度急性期・急性期医療を提供する共に、特別な医療需要に対する在宅医療も提供し、地域とのつながりを益々深めていきたいと考えています。ひきつづき、医師・医療者向けの「法円坂地域医療フォーラム」や「緩和ケアセミナー」、市民向けの「おおさか健康セミナー」などを定期的に開催いたします。また未来の医療人を育てるために、中学生・高校生向けに「アドベンチャーHospital in 大阪医療センター」を毎年行い、大変好評です。

また、昨年後半より外来インターネット予約も本格的に開始しました。登録医・連携医の先生方にはよりスムーズな外来予約が可能となっています。是非ご活用頂ければ幸いです。救急対応については昨年飛躍的に受け入れ患者数が増加しました。今後共「断らない救急」を合言葉にできるだけ多くの患者を受け入れ地域の救急医療にも貢献してまいりたいと思います。

当院は従来より地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、エイズ診療近畿ブロック拠点病院、臨床研修指定病院など種々の指定を受け、国が実施しなければならない医療を国に代わり地域医療において実施するという大きな使命を担っております。その他にも、緊急災害医療棟や非常用備蓄庫を備え、西日本災害医療拠点病院、大阪府災害拠点病院、厚生労働省医政局災害医療対策室DMAT事務局など、災害に対する取り組みも行っています。

我々は専門性の高い良質の医療を提供できていると自負しています。この特長を生かし、更なる医療の質の向上、地域への還元をさらに進めていきたいと考えております。また診療のみならず、教育・研修、臨床研究、情報発信についてもこれまでの活動を継続させ、より一層発展させていく所存です。

本年度も、ご支援・ご援助のほどをよろしくお願い申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター院長 是恒 之宏

第42回 法円坂地域医療フォーラムの報告

国立病院機構 大阪医療センター 耳鼻咽喉科 科長 西村 洋

平成29年10月21日（土）午後3時から第42回法円坂地域医療フォーラムを当院の救急災害棟にて開催しました。院外から33名、院外7名、合わせて40名のオーディエンスにご参加いただきました。

第一部は耳鼻咽喉科からの講演でした。森鼻先生に難聴の診断と治療を講演してもらいました。難聴の分類や中耳炎やその治療、そして人工内耳治療について話してもらいました。また私の方からめまいに関する講演をしました。私の話はめまい疾患全般に関してですが、その中でも今回、脳卒中内科の橋川先生にも座長をしてもらいましたが、中枢性のめまいに関してのお話、耳鼻咽喉科の専門分野であるメニエール病（＝内リンパ水腫）を含む末梢性めまい（耳性めまい）全般に関してのお話、そして今年になって当院に新規に導入された3-Tesla MRI検査装置によって可能になった内耳造影MRI検査によって内リンパ水腫が診断可能になったという話をさせていただきました。

また、第二部では形成外科の吉龍先生から眼瞼

第42回 法円坂 地域医療フォーラム
主催：「法円坂 地域医療フォーラム」運営協議会

テーマ **「耳の疾患（難聴・めまい）と眼瞼形成」**

日時：平成29年10月21日（土）
15：00～17：30（受付開始 14：30）
会場：大阪医療センター 緊急災害医療棟3階 講堂

【司会】 国立病院機構 大阪医療センター 地域医療連携推進部長 橋川 一雄

1. 開会挨拶 国立病院機構 大阪医療センター 副院長 関本 真嗣

2. 講演

第一部 「耳の疾患」

【座長】 国立病院機構 大阪医療センター 脳卒中内科科長（地域医療連携推進部長） 橋川 一雄

「難聴の診断と治療 -とくに人工内耳について-」
国立病院機構 大阪医療センター 耳鼻咽喉科医長 森鼻 哲生

「めまいの診断と治療 -とくに内耳造影MRIについて-」
国立病院機構 大阪医療センター 耳鼻咽喉科科長 西村 洋

第二部 「形成外科の疾患」

【座長】 国立病院機構 大阪医療センター 眼科科長（外務診療部長） 大島 安正

「眼瞼の形成外科 -とくに眼瞼下垂、眼瞼腫瘍治療について-」
国立病院機構 大阪医療センター 形成外科科長 吉龍 澄子

3. 閉会挨拶 国立病院機構 大阪医療センター 副院長 中森 正二

・参加費無料 ・当日受付可 ・大阪府医師会生涯教育研修指定申請中
申し込み・お問い合せ先：大阪医療センター地域医療連携課 窓口 06-6946-3518

の形成について話してもらいました。眼瞼の腫瘍の治療やまた眼瞼下垂の手術治療について写真などでわかりやすい講演でした。

当日は台風による荒天の中、ご参加いただきました地域の先生方、また挨拶や座長の労をお取りいただいた幹部の先生方、また事務スタッフの面々に深謝します。

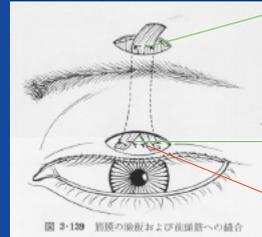
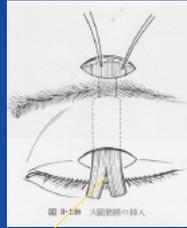


筋膜吊り上げ術 (瞼板と眉毛部皮下をつなぐ)

前頭筋や
眉毛上縁皮下に固定



筋膜(大腿などから採取)



瞼板に固定

(当科での工夫)
断端を皮下に固定

↓
重瞼作製



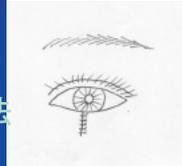
(眼の形成外科 添田周吾 編著、克誠堂出版より)

美容的な切開法の工夫

下眼瞼縁の色素性母斑(ホクロ)



従来の方法

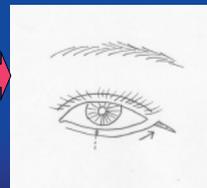
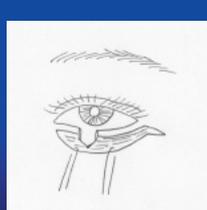


or



表に縦の切開線が入る

我々の工夫



表側に縦の切開線が入らない

第60回 おおさか健康セミナーの報告

国立病院機構 大阪医療センター 呼吸器内科 科長 小河原 光正

平成29年10月28日（土）14時から第60回おおさか健康セミナーが大阪医療センター災害医療棟3階講堂において開催されました。今回は「肺がん」をテーマとしました。当日は台風22号が接近中のため参加者が少ないのではと危惧していましたが、悪天候にもかかわらず86名と多数の方にご参加いただきました。

がん（悪性腫瘍）は日本人の死因の約四分の一を占めており、その中でも肺がんは男性では1位、女性でも2位の死亡数となっていて、対策が重要となっています。今回は肺がんの診断や治療について最近の話題も含めて4演題を用意しました。さらに看護部からのお役立ち看護情報として「こころも からだも ラッタッタ体操」の紹介を行いました。

まず、最初に放射線診断科栗山啓子科長より「禁煙と肺がん検診2017」として、禁煙と肺がん検診についての講演がありました。喫煙がかっこいいファッションであったかのように世間で思われていた時代の懐かしい映画スターなどの写真で話が始められました。タバコの消費量の急激な増加に約20年遅れて肺がんが急に増加してきました。タバコの煙にはニコチン、タール、一酸化炭素の三大有害物質が含まれています。タバコは肺以外の多数の臓器にもがんのリスクを高くし、動脈硬化性の生活習慣病や慢性閉塞性肺疾患などにも関連し、皮膚の老化を早めます。受動喫煙によって家族や周囲の人に肺がんその他の喫煙関連疾患のリスクを上昇させます。また、肺がんの検診として胸部X線写真、低線量CT検査があります。特にCT検診で肺がんの検出率が上がりますが、不利益を伴うこともあるので、喫煙が優先されます。「肺がん死亡を減らすためには、タバコを吸わないこと、肺がん検診を受けること」でした。

次に呼吸器内科科長小河原光正より「肺がんの検査と内科治療」について話しました。肺がんの確定診断のためには細胞を採取して病理診断が必

要です。細胞の種類（組織型）や遺伝子の変化などにより治療法が違う場合があります。がんの拡がりを調べて病期（ステージ）を決めることが必要です。細胞の採取のために実施することが多い気管支鏡検査について当院の最新の気管支鏡の設備を紹介しました。治療については、抗がん剤、手術、放射線治療を組み合わせた治療を行う場合もあります。最近の話題として、血管新生阻害薬、EGFR遺伝子変異・ALK融合遺伝子・ROS1遺伝子を標的とした分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬について話しました。肺がんの治療にあたっては当院では各診療科の連携のみならず、様々な職種が協力してチーム医療を行っていることを紹介しました。

後半はまず、呼吸器外科高見康二科長より「肺がんの外科治療～最近の話題」の講演がありました。喫煙により肺の表面が黒く変化していることを手術肺の写真で見いただきました。手術に当たっては肺がんの組織型、肺がんの拡がり（病期；ステージ）のほか、肺・心臓・肝臓・腎臓などの機能、栄養状態など手術に耐えられる身体機能があるかどうかについて考慮する必要があります。手術での肺の切除範囲について、標準的手術のほかに縮小手術の方法があり、また、手術アプ

ローチ方法として開胸手術と胸腔鏡補助下手術があります。実際の肺の手術を動画で紹介しました。また、当院における肺がん手術の成績についても紹介がありました。

最後に放射線治療科田中英一科長より「肺がんの放射線治療」について話しました。肺がん患者さんの約30%に放射線治療が行われていること、放射線治療はがんを完全に治すことを目標とする場合のほか、痛みなどの症状を緩和する目的や手術の前後で再発を予防する目的で行われる場合もあります。当院で肺がんの治療に使用しているリニアック（外部放射線治療装置）の機械を紹介し、専用のコンピュータを用いてどのように照射するかをシュミレーションしていること、早期の肺がんに対しては定位放射線治療（ピンポイント照射）も行っていること、骨転移や脳転移に対して症状を緩和する目的で照射する場合もあることを話しました。

慢性呼吸器疾患看護認定看護師の田中剛弘看護師からの「こころもからだもラッタッタ体操」でリフレッシュしていただいた後に質問コーナーに移りました。共通して寄せられた代表的ないくつかの質問に対して各専門診療科から回答いたしました。多数の質問を頂戴いただきましたが、時間の制約上、十分にお答えできる時間がとれず申し訳ありませんでした。

最後に本セミナーの企画、進行に協力していただいた方々、講演者、長時間にわたりセミナーを聞いていただきましたご参加者の皆様に感謝申し上げます。



緩和ケア研修会

薬剤師 仲野 宏紀

平成29年12月2日、3日の2日間、当院の緩和ケア研修会にサポーターとして参加しました。この研修会は「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」を背景に、緩和ケアの基本的な知識・技術・態度について学ぶことや医師が困った時に相談する必要性を理解することを目的とし、座学とグループワーク・ロールプレイで構成された研修会で、院内外の医師33名が参加しました。1日目は緩和ケアの概論やがん疼痛の評価と治療、呼吸困難に対する薬物治療やケア等の座学を行いました。その後、腎がん、肺転移、肝転移、骨転移の患者に対し、痛みの原因や状態の評価をして、どのような薬物治療や薬物療法以外の治療、ケアを行うのか、また在宅医療への移行についてのグループワークを行いました。2日目

は悪心・嘔吐やせん妄、気持ちのつらさの原因や薬物治療、ケアについての座学を行い、オピオイド導入とコミュニケーションのロールプレイを行いました。私は今回、主にグループワークやロールプレイに参加しました。コミュニケーションのロールプレイは時間内に「難治がんの診断を伝える」というテーマで患者役と医師役に分かれ、話を聞く・質問する・共感する・応答するスキル等を意識して行いました。患者の気持ちに最大限配慮し、診断と今後の治療方針を正確に伝えることは大変難しく、参加した医師より、日常診療で気を付けているポイントを教えていただきました。これからの患者とのコミュニケーションを取る際のコツを学ぶ良い機会となりました。また、院外ファシリテーターの医師と情報交換もでき、有意義な時間を過ごすことができました。



この度、私は緩和ケア研修会に参加しました。緩和ケア研修会は2012年に打ち出された「がん対策推進基本計画」に基づき開催され、がん診療連携拠点病院においてはがん診療に関わるすべての医師が緩和ケア研修会を終了することが目標とされています。研修は2017年12月2日（土）、3日（日）の2日間の日程で行われました。2日間のスケジュールとしては両日ともに朝から夕方までみっちりプログラムが組み込まれていて充実した内容でした。

プログラムは講義、グループワーク、ロールプレイで構成されていました。講義では緩和ケアの

概論、オピオイドの処方について、終末期の症状やオピオイドの副作用についての各論、気持ちのつらさの評価とそのケアについてなどがテーマとされていました。各講義では実際の臨床でも参考にしたい点が多く大変参考になりました。特にオピオイド開始については不勉強な私にもわかりやすく、今後実際の処方の際にも使わせていただこうと思いました。オピオイドについての偏見、誤った知識を医療者も患者もなくしていくことが緩和医療において重要であることを再確認することができました。グループワーク、ロールプレイは普段行うことがない活動なのでいずれも大変緊張しましたが、がんの告知や在宅医療への移行についてなど決まりきった正解と言えるものがない問題について深く考える良い機会となりました。



連携医療機関の先生方にご利用頂けるMRI、CTの予約システムについて

国立病院機構大阪医療センター 放射線診断科 科長 栗山 啓子
 国立病院機構大阪医療センター 診療放射線技師長 与小田 一郎

大阪医療センターでは、2017年2月より最上位機種である3テスラMRI装置が稼働し、これまでより不快な音を抑制した環境で、脳神経外科・整形外科・耳鼻科・泌尿器科・婦人科領域を中心に、鮮明な画像と迅速なレポートをお返しし、先生方からも患者様からも好評を頂いております。

当院ではMRIおよびCT検査について、平日の午前中に共同利用の検査枠を設けており、前日の午

後5時までに、地域医療連携室宛に当院指定の「診療情報提供書（画像申込書兼用）」をFAX送信頂ければ、ご予約ができます。現在、地域医療連携室のホームページは、画像検査に対応する準備を行っており、改修までの期間は、放射線科のトップページから「診療情報提供書」をダウンロードして頂けます。



からダウンロード可能



検査後の読影レポートは、遅くとも検査翌日の午前中にFAXにてお返しし、改めて検査画像を記録したCDRと読影レポートを郵送いたします。

2017年度の共同利用件数は、11月までの累計で、MRIが125件（昨年度比50件増）、CTが93件（昨年度比11件増）と増加しております。今後とも連携医療機関の先生方には、3TMRI装置をはじめ、当院の画像診断機器をますますご活用頂きますようお願い申し上げます。

最後に、2017年11月に、日本乳がん検診精度管理中央機構施設画像評価委員会の審査を受け、マンモグラフィ検診施設画像認定で、2期連続A認定を取得し、乳腺外科の診療に寄与していることを申し添えます。



3TMRI装置

『第45回 “愛の夢コンサート” クリスマスコンサート』を終えて

ボランティア・コーディネーター 藤本 和彰

2017年12月12日、当院・講堂にて音楽ボランティア皆さまによる、第45回“愛の夢コンサート”クリスマスコンサートを開催しました。

会場の講堂には大小2体のクリスマスツリーが、ボランティア「法円坂」の皆さまにより、とても綺麗に飾り付けられました。そして会場は楽しみにされている患者さん・ご家族で一杯に！“皆さまこんにちは～・・・”いつも進行のお手伝いをしてくださる、八田 叔子さんの挨拶でコンサートが始まりました。

最初の奏者は、ピアノソロの佐竹 史子さん。今回で45回を迎えた“愛の夢コンサート”ですが、第1回よりレギュラー出演していただいています。オープニング曲は「♪バラ色の人生」。フランス曲

名は「ラ・ヴィ・アン・ローズ」。1946年のシャンソン歌手エディット・ピアフの代表作です。この曲はたくさんの映画やドラマに使われていて、ご存じの方も多かったのではないのでしょうか。

続いての曲は「♪虹の彼方に」。1939年のミュージカル映画『オズの魔法使い』でジュディ・ガーランドが歌った劇中歌。そして「♪星に願いを」。この曲は、1940年のディズニー映画『ピノキオ』の主題歌です。今日は作曲家・佐竹史子さんがクリスマスバージョンにアレンジして、聴かせてくださいました。それぞれに情景を思い浮かべながら、懐かしく聴いておられたのではないのでしょうか。

そして最後は、オリジナル曲「♪秋色の風景」。



「先日、万博公園の中の日本庭園に行った時、秋色になった美しい風景に感動し、この曲を作りました。」とコメントを残されています。皆さんと一緒に日本庭園を・・・、そして秋色の風景を思い浮かべながら聴いていただけたのではないのでしょうか。「ブラヴォー、ブラヴォー・・・」と称賛の声。ピアニスト・作曲家としても活躍中の佐竹 史子さん。いつもながらの暗譜演奏と華麗なテクニック。そして作曲家ならではの情感豊かで、美しいアレンジの旋律にいつも思わず引き込まれてしまいます。心が和み、生のピアノ演奏を、お楽しみいただけたことを感じています。

続いての奏者はピアーチェの皆さん。ピアーチェはイタリア語で「楽しい」「愉快的」という意味です。皆さまの身近な場所を訪問し、ピアノ・ヴァイオリン・フルート・クラリネット・歌のアンサンブルで生演奏を届けてくださいます。

きょうは、ピアノ（山口 美樹子さん）・ヴァイオリン（浜田 里香さん）・フルート（川瀬 千佳江さん）・歌（ソプラノ・平田 雅代さん）の女性4人のアンサンブルで参加していただきました。

今回のコンサートで印象に残った曲は2曲。クリスマスの定番！「♪そりすべり」。この曲は、ア

メリカの作曲家ルロイ・アンダーソンの代表作です。鈴と軽快なリズム、明るいメロディーに心も弾みました。子ども達がそり遊びをしている情景が目には浮かびます。

そして、「♪エル・クンバンチェロ」。曲名は“ぱっ”と浮かばなかったものの、間違いなく幾度か聴いたことのある曲でした。プエルトリコ出身のラファエル・ヘルナンデスが作曲したラテン音楽であり、「智辯和歌山高校」など、夏の高校野球大会の応援歌としてお馴染みの曲でした。

ステージに副院長先生、副看護部長、看護師さんをお迎えし、会場のお子さん達など多くの皆さまが参加してくださり、素晴らしい応援歌になりました。タンバリンや鈴、カスタネットなどの鳴り物の楽器と、手拍子、足拍子などで大盛況、きょう一番に盛り上がったひと時でした。

又、「みんなで歌いましょう！」のコーナーでは、会場の皆さんと、手話をまじえて歌った「♪赤鼻のトナカイ」。その熱演に先生方のいつもと違った、こころ穏やかな表情を垣間見させていただいた気がします。

そしてプログラム最後の曲、ベートーベン作曲



『交響曲第9番』より「♪喜びの歌」を合唱し、終演を迎えました。ソプラノ歌手・平田 雅代さんは、「2018年、明るい一年が迎えられるように祈りを込めて、「喜びの歌」を皆さんと一緒に歌いたと思います。」と述べられました。

ピーアチェの皆さまには、今回もバラエティに富んだ素晴らしいプログラムを作ってくださいました。クリスマスの雰囲気一杯、味あわせていただきました。ソプラノの美しい歌声と素晴らしい演奏で、「ピーアチェ」ならではの文字通りの楽しい・愉快的思い出に残るステージを、多くの患者さんに届けてくださり、そして何よりも「元氣」をいただきました。

音楽ボランティア皆さまからの心の贈り物「“愛の夢”クリスマスコンサート」、会場いっぱいの皆さまに聴いていただくことができました。音楽を通じ少しでも心を和らげ、これからの療養のお役に立てれば幸いに思います。患者さんの一日も早いご回復と、ご退院をボランティア・職員一同願っております。

そして何よりも、この病院コンサートが未永く続くことを願っています。「楽しい時間をありがとうございました。」皆さまのご支援・ご協力に感謝いたします。

講演会・セミナー等のご案内

大阪医療センターでは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援するために定期的に講演会やセミナーを開催しています。今後の予定につきましては地域医療連携室までお問い合わせ下さい。

第61回

おおさか健康セミナー

講演
メインテーマ

口と顎の身近な病気

日時 平成30年2月3日(土) 会場 国立病院機構 大阪医療センター
14:00~16:30 緊急災害医療棟3階 講堂

講演内容

1	中・高齢者の 口腔管理	国立病院機構 大阪医療センター 口腔外科 科長	有家 巧
2	口腔粘膜の病気	国立病院機構 大阪医療センター 口腔外科 医員	鹿野 学
3	顎関節の病気	国立病院機構 大阪医療センター 口腔外科 科長	有家 巧

お役立ち
看護情報

口腔ケアについて
～口の準備体操～

国立病院機構 大阪医療センター
緩和ケア認定看護師

梶原 裕希

- 質問に対する回答 ▶ いただいた質問に回答します。時間の関係上、全ての質問にお答え出来ない場合がございますのでご了承ください。
- 次回開催予定 ▶ 平成30年4月21日(土)〈脳卒中内科〉

お問い合わせ ▶▶ 国立病院機構 大阪医療センター 地域医療連携室 窓口
TEL 06-6942-1331(代)

第43回 法円坂 地域医療フォーラム

主催：「法円坂 地域医療フォーラム」運営協議会

テーマ ▶ 「大腸疾患治療」

日時：平成30年2月17日(土)
15:00~17:30 (受付開始 14:30)
会場：大阪医療センター 緊急災害医療棟3階 講堂

【司会】 国立病院機構 大阪医療センター 地域医療連携推進部長 橋川 一雄

1.開会挨拶
国立病院機構 大阪医療センター 院長 是恒 之宏

2.講演
第1部
【座長】 国立病院機構 大阪医療センター 下部消化管外科科長 加藤 健志
「大腸内視鏡治療の最近の話題」
国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科医師 赤坂 智史
「最新の大腸癌に対する手術療法」
国立病院機構 大阪医療センター 下部消化管外科医師 三宅 正和
第2部
【座長】 国立病院機構 大阪医療センター 副院長 関本 貢嗣
「最新の大腸癌に対する化学療法」
国立病院機構 大阪医療センター 下部消化管外科科長 加藤 健志

3.閉会挨拶
国立病院機構 大阪医療センター 副院長 関本 貢嗣

・参加費無料 ・当日受付可 ・大阪府医師会生涯教育研修指定申請中
申し込み・お問い合わせ先：大阪医療センター-地域医療連携室 窓口 06-6946-3516

脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内

当院では、主に救急隊からの脳卒中・循環器疾患による患者搬送を受け入れできるよう、脳卒中・循環器ホットラインを設置しておりますが、本ホットラインは救急隊からの要請に限定したのではなく、広く各医療機関様からのご連絡も24時間お受けできる体制を取っています。

貴院かかりつけ患者様あるいは救急搬送された患者様で、脳卒中・心臓・大血管疾患の急変等が起こった際の搬送先として、当院のホットラインをぜひご活用ください。



独立行政法人 国立病院機構
大阪医療センター

〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL: 06-6942-1331 (代)

循環器ホットライン

06-6946-3544

循環器疾患24時間対応します。

脳卒中ホットライン

06-6946-3543

脳血管疾患24時間対応します。

医師及び消防局救急隊からの電話に限ります。

NHO PRESS ~国立病院機構通信~について

大阪医療センターは、国立病院機構（NHO: National Hospital Organization）という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS~国立病院機構通信~』を発行しています。

ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、ぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



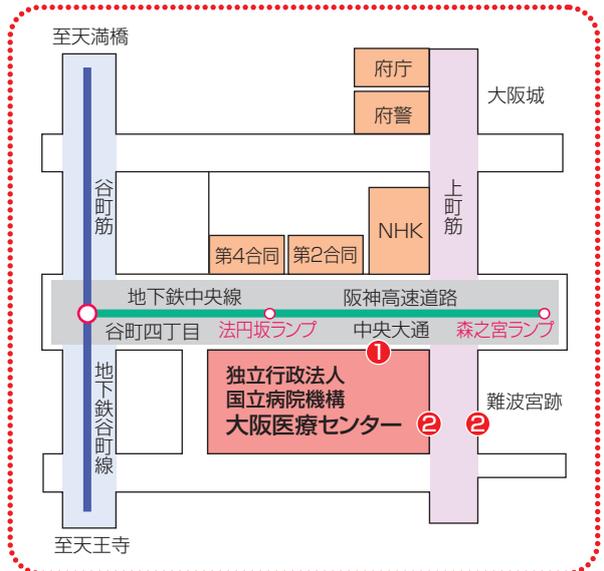
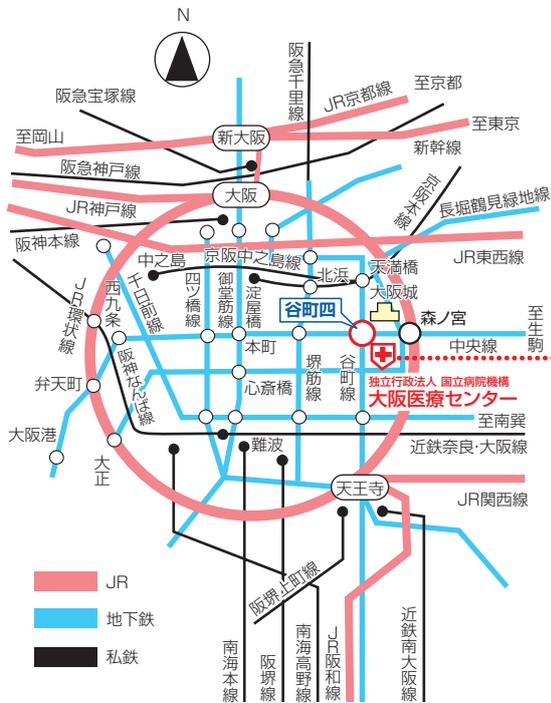
NHO PRESS

検索

QRコード



交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■バス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。